

武蔵野市農業振興基本計画見直し検討委員会（第2回）
会議録要旨

日 時：令和3年9月24日（金曜日）午後2時1分から4時30分
場 所：武蔵野市役所西棟8階813会議室
出席委員：淵野雄二郎委員長、榎本一宏副委員長、田中誠委員、後藤幸治委員 伊藤輝夫委員、森田茂紀委員、田中宏茂委員、岩本千絵委員 田川良太委員
欠席委員：中村健二委員
事務局：吉崎産業振興課長、産業振興課農政係職員

次第

- (1) アンケート調査結果について
- (2) 現行計画に関する数値等の推移について
- (3) 計画改定案の検討について
- (4) 事務連絡等

1 アンケート調査結果について

●市民向けアンケート及び農業者アンケートの結果の概要について、事務局より説明を行った。

（委員）農業者についてはある程度前回の回答者が重複し、回答内容が変化していると考えられるが、市民についてはそうとも限らないということを含頭に置くべきである。

農家戸数や農地面積が減少傾向にあるのは確実なので、数字の増減にとらわれすぎず、維持されている、又は、減少の幅が小さいといったような部分を見て、施策の効果検証を行うべきである。比較対象については、本委員会で確認していく必要があると思う。

（課長）市民向けアンケートについては、回答者が同じ方とは限らないため、前回との増減に対して評価するものではないと考えている。なので、本計画を見直すための参考値として捉えていただきたい。

●援農ボランティア制度について、意見交換を行った。

●学校給食について、意見交換を行った。

（委員）アンケートの結果については、どこまで市民に向けて発信するのか。

（課長）計画の最後のほうに資料として入れ、公表する予定である。

（委員）麦わら帽子や新鮮館にも結果を共有してほしい。

●農業者向けアンケートについて

（委員）農業者向けアンケートの「調査対象」欄にも（農業者）と加筆すると親切だと思う。

（事務局）そのように追加する。

（委員）非常に良い結果もある一方、子どもが農業を継いでくれるかわからない、

自分の代で農業を辞めてしまうかもしれないといった意見もあるので、この計画の中で行政の施策としてできることを盛り込んでいただけたらと思う。

(委員) ボランティアは実際にやってみるといろいろやってもらえることもある。後継者問題については、農協や市でも施策があるとありがたい。

(委員) 生産緑地の貸借に関する周知も課題。もっと残せる農地が出てくると思う。

(委員) 武蔵野市内に農地を残すには、市が買い取る必要があると思う。農協を通じて農業者の協力を得て、耕作を行う形が良いと思う。

(委員) 話は戻るが、市民アンケートで土ぼこりの問題が気になった。何か対策があれば。

(委員) アンケートの内容を見て、税制については厳しい意見もあった。農地を残せばいいのか、農家が耕作をしている農地を残せばいいのか、そういった議論をして、市民の方と農家の認識のギャップを埋めるような何かができないといけないと感じた。

(委員) 新型コロナウイルス感染症の影響で、農業者向けアンケートでは売上金額が減少したという回答が22.4%だったのに対し、市民向けアンケートでは農産物の購入が増えたという回答が34.7%である。一方が減少し、他方が増加していることについては理解しづらい部分もあるが、コロナが生活に何らかの影響を与えていることは想像できるので、今回の見直しでは何らかコメントしたほうが良いと思っている。
環境面においても、鳥獣害対策や台風被害等の対策を考えていかなければならないと思う。

(委員) 獣害は空き家対策とも関連があるので、農業だけでなく他部署とも連携して取組みを支援していくと良いと思う。

(委員長) 農業単独で施策を策定するのはなかなか難しくなっているから、他部署と相互連携する動きが出てきている印象を受けており、その中で見直し・改定・策定をどのように検討していくかということになると思う。

2 現行計画に関する数値等の推移について

●現行計画に関する数値等の推移について、事務局より説明を行った。

(委員) 学校給食の使用割合が減少したというのは、どのように分析するのか。

(委員) 市内では児童・生徒数が増加してきていることに伴って、供給の割合が低くなっているように見えている。

(委員) コロナで給食が中止になった影響もあると考えている。

(委員) 供給が減少しているように見えるので、注釈が必要だと思う。

(事務局) 後で示す事務局案ではその箇所について配慮している。

(委員) 実際に職場体験を行っているのに、行っていないように見える記載がある。実際にやっているのであれば、その実績を入れられるのではないかと。

(課長) 産業振興課農政係として行っている事業のみを記載したので、教育委員

会所管の事業実績については、表現を検討させていただきたい。

(委員) 幼稚園や保育園の芋ほりは入らないのか。

(課長) 学校に関する記述としてしているので、ここでは外している。

(副委員長) 各農家で個別に学校とやり取りしているところもある。学校給食・触媒体験・芋ほり・農園での活動等、教育関係に接点は結構あると思うので、教育の何かの一環として農家がサポートしているという記述があっても良いのではないか。

(課長) 記載の仕方については、表現を検討していきたい。

(委員) 数値目標は下回ってしまう可能性があるにしても、減少をある程度抑えるための施策を実施するということになるので、目標は設定しておいたほうが良いのではないか。

(課長) 計画として数値目標が設定されなければならない一方、農家戸数・農地面積については個人の問題でもあるので、それに対して目標を設定するのか、行政が関与できるものなのかという疑問があったので、今日の議題の1つとして挙げさせていただいた。

(委員) 既に掲げている目標値を下回っているが、シミュレーションをした結果、その減少幅をいかに小さくするかについては、行政がカバーできる部分もある。ただし農家個人の考え方によるものもあり、目標設定が難しいということを理解してもらうことが必要だと思う。

(委員) 目標値は挙げないにしても、現状で策定時の目標を大きく下回っているので、市としてその減少をどのように抑えていくのかが計画になるのだと思う。

(委員長) 農地が増えるということはずまいと思うので、農に係る事業を行う上でどの程度の農地が必要かということが前提になる。その前提があった上で、最低10%減少までは抑え込まなければならないという目標の立て方もあると思う。

(課長) この後に説明する改定案でも記載をしている箇所があるので、改めてご意見を頂戴したい。

3 計画改定案の検討について

●計画改定案について、事務局より説明を行った。

(委員) 一つ一つ議論を進めると、本日の時間内に収まらないので、一旦持ち帰って次回に意見を調整するという方向でいかがか。

(委員長) 重要な内容の検討なので、時間をかけたほうが良いと思う。

(事務局) 次回が10月11日で、パブリックコメントの計画案をお示しする段階なので、10月下旬又は11月上旬で追加の委員会を設けさせていただきたい。

●日程を調整した結果、第3回を10月27日(水曜日)午前9時30分からとし、計5回、委員会を開催することとした。

(委員) 10月11日に議論したい内容は事前に送付したほうが良いのか。

(課長) 可能であれば、開催前にメール等でご意見をいただき、事務局で反映し

たものをお示しできるようにしたい。

4 事務連絡等〈省略〉

以上